

しん た ろう
こじま信太郎 Hassin!今こそ次世代交通へ
投資と挑戦を!

交通不便地域やオーバーツーリズム…交通に課題を抱えている京都市において、交通への投資が求められます。しかしながら、既存交通、とくに路線バスは運転手不足という予算だけでは越えがたい大きなハードルに直面しています。だから今こそ、**次世代交通への挑戦が必要不可欠**です。

1 自動運転バスの実証実験

9月市会の補正予算で、今年度、「レベル2」の自動運転バスの実証実験に取り組むことが決まりました。まだまだ発展途中の自動運転ですが、バス運転手不足の解消へ向け、避けて通ることは出来ない技術であり、前に進めていくことは大賛成です。

まずは洛西での運行を進めていくとのことですが、今後、国の補助金をしっかり獲得しつつ、例えば山科・小生塚地域のように**自動運転バスが将来にわたって交通課題解決に繋がるような地域にも光を与えられる**かがポイントになります。

ただし、残念ながら自動運転バスだけでは現状すべての問題をクリアすることには至らないため、同時に**他の次世代交通も前に進めていくべき**と求めています。

全国で初めて
「レベル4」で運行された
松山市の自動運転路線バス



2 AIデマンド交通で交通不便地域解消へ!

路線バスとタクシーの中間といえる柔軟な移動手段であり、利用者のデマンド（予約）に対してAIで最適なルートを選択し、目的地まで乗り合いで運行するのがAIデマンド交通です。すでに多くの自治体において実装されています。

路線バスよりも一度に乘れる乗客は少ないものの、時間や乗車位置の自由度が高く、何より大型免許を必要としないことはバスとの大きな違いで利点となります。

議会の答弁では、既存交通、つまり路線バスとの兼ね合いが課題のひとつとされましたが、バス路線の維持確保が難しくなる一方の昨今において、利用者が少ない地域の路線をデマンド交通で代替もしくは補完することはバス事業者ともWin-Winになると考えられます。

そこで課題として残るのが、運行にかかる予算です。視察に訪れた自治体では、1台あたり年間約1400万円必要とのことであり、相当の予算を要することが分かりました。

しかしながら、2種免許を持たない他の業種との連携で費用を抑えることも考えられますし、逆に捉えれば**予算さえ確保できれば早急に実施できる次世代交通**だといえます。自ら交通対策に取り組んでいただいている（地域MM活動）エリアを念頭に、例えば宿泊税を財源として数億円確保すれば、一定規模でAIデマンド交通を実装できるはずです。

3 路面電車130周年!今こそ京都にLRTを!!

今年は日本で初めて路面電車が走って130周年の節目といわれています。そして、明治28年に最初に路面電車が開通したのが、まさに京都のまちです。山科を流れる琵琶湖疏水の水を利用して、こちらも日本初の事業用水力発電を行い、その電気をもとに走ったのが、京都電気鉄道という民間会社が始めた路面電車でした。その後、京都市が買収して「京都市電」として昭和53年まで親しまれた**京都の路面電車を今こそ復活させよう!**という声が盛り上がりつつあります。

LRTとは次世代型の路面電車であり、一番の特徴は路面からフラットに乗り降りできることで高齢者や車椅子、ベビーカーにまで優しい仕様です。他都市では富山や栃木が有名であり、とくに2023年開業の「芳賀・宇都宮LRT・ライトライン」はその好調ぶりが注目されています。LRTは開通にあたって、地下鉄と比べれば格段に安いものの、先のAIデマンド交通と比べれば桁違いとなる数百億規模の費用を要します。しかしながら、路線バス等と異なり専用の軌道が確保されるため、地域の振興に大きく貢献します。したがって、初期投資は必要ですが、人口の増加や地価の上昇によって**将来的な税収増が期待できる発展的な投資**といえます。

LRT構想を進めるために最も大事なことは、都市計画です。私は市内周辺部の発展を目指したLRTこそ、京都の未来にとって必要だと考えています。まちの未来と、今ある交通課題を見据えて、次世代交通への挑戦を求めています。



市政をまっすぐ
あなた
市民に届ける

小島 信太郎

プロフィール

- 1986年（昭和61年）11月10日生まれ
- 衆議院議員 前原誠司 元秘書
- まちづくり委員会 委員
- 家族：妻、長女（小4）、長男（小2）、保護猫達
- 特技：社交ダンス、剣道（2段）、和太鼓
- 地域：山科消防団大宅分団 部長
- 趣味：ソフトバレー
- 好物：ラーメン、蕎麦、たこ焼き、ゴミ
- その他：京都東山ボーイズ顧問



発行元・お問合せ先

こじま信太郎事務所

〒607-8142 京都市山科区東野中井ノ上町 7-68
（東野駅徒歩8分）

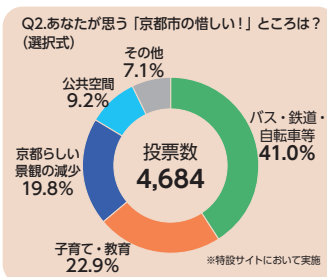
TEL：075-582-1115

FAX：075-582-1116

E-mail：kojima.hassin@gmail.com

京都市会議員こじま信太郎
Instagram @

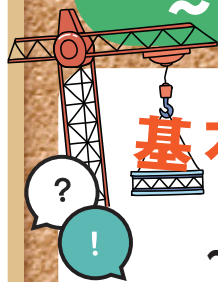
京都・山科の情報発信や
相談窓口として更新しています!



※京都市の未来を考える特設サイト「みんなの理想京」には交通が「惜しい!」という意見が多数

まちづくりに まっすぐ向き合う

～まちづくり委員会での質問～



基本構想

ってなに??

～25年先の未来に向けて
大事なことは今～



基本構想とは、自治体の理念や理想、長期的な方向性を示したもので、長らく自治体に策定が義務づけられてきました。京都市ではこれまで25年に1度策定されてきて、現行の「京都市基本構想」は2001年以来、京都市が目指す理想として掲げられてきました。

25年が経過する2026年に向けて、11月市会には新たな「京都基本構想（案）」が示されました。そこで、審査特別委員会が設置され、市長副市長に対して直接質問する機会となる市長総括質疑も行われました。

各議員から質疑の内容は多岐にわたりましたが、一番のポイントとなるのは、2011年に自治体法が改正によって策定が義務ではなくなった基本構想を、なぜ改めて策定するのかということです。基本構想策定の意義について、市長からは、**基本構想に記された京都がもつ唯一無二の価値観を多くの人と共有することが重要**である、という趣旨の説明がありました。確かに、場当たりの施策によって、京都ならではの魅力が失われることはあってはなりません。

今年度はまちづくり委員会に所属し、毎委員会で質問を重ねています。まちづくり委員会は道路・公園から都市計画に関わり、大きなテーマから最も身近な課題まで多岐にわたる議論が可能です。ここまで質問したテーマをいくつか紹介するので、ぜひ関心をお寄せいただき、気軽に質問や相談をお願いします。

他方で私から指摘したのは、果たして新しい**基本構想の内容が広く市民と共有しやすいものになっているか**、ということでした。合計22箇所の注釈が付いた文章は難解ではないか、ということとは他の議員やパブリックコメントでも指摘がありました。

議員として6年余り行政と向き合うなかで感じているのは、**行政用語というのは市民の皆さんに分かりやすいものではない**ということです。「市政をまっすぐ市民に届ける」ためには、**分かりやすい言葉が重要**だとあらためて考えます。

基本構想は市政に対して直接的な実効性をもったものではありません。しかし、裏面に記載した交通課題をはじめ、京都市には向き合うべき大きな課題があります。今市民から求められているのは理念・理想でなく、**具体的に課題解決に向けて何をしていくのか**です。

基本構想の審査を通して、あらためて25年先の京都について考える機会になりました。せっかく策定される京都基本構想ですから、ぜひ一度読んでいただき、京都にとって何が大事で、何が課題か、ご意見や感想をお願いいたします。



総括質疑

総括質疑動画



「京都基本構想」



決議で求める!

臨時交付金の使い道は?!

5000円分のデジタル地域ポイント給付へ



11月市会において、維新・京都・国民市会議員団と菅谷議員と共同で「物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の効果的・効率的な執行を求める決議」を提出し、賛成多数で可決しました。

物価高騰対策に向けた大規模の臨時交付金については、どのように市民・事業者や地域経済を支援するかは自治体に委ねられました。政府が推奨する「おこめ券」に疑問が噴出するなか、京都市として効率的かつ効果的な支援を行うよう議会として決議で求めました。

結果、臨時交付金等を原資として12月市会で提案されたのは、①**5000円分のデジタル地域ポイント給付**、②**独自に上乗せした25000円の「子育て応援手当」**、③**住民税非課税世帯対象の「京都市くらし応援給付金」**でした。

①について、効果的という観点では、現金に近い役割をもったポイント給付は一定の受益感がありますし、使える店舗等を市内に限定することで地域経済への好影響が期待できます。

効率性については、全体約45億円の予算のうち約9億円の事務費が必要となります。現金給付や商品券等の現物支給と比べれば事務費は安く抑えられるとのことであり、もっとも事務費を提言できる水道使用量減免は、市民と市民以外を区別できない等々の問題点があることから、一定やむない支出であるかと考えられます。ここで大事なことは、給付に向けて開発するデジタル地域ポイントのアプリを、一度きりでなく**今後も地域経済の振興に活用できるか**ということです。

ただ、今回の給付についてはベストな選択というのは難しかったといえます。マイナンバーカードを取得していない方や、アプリの利用が困難な方が対象から漏れてしまうことで、幅広い支援になっていないのではというご批判は真摯に受け止めなければなりません。

同様の給付を行う際に、今後**更に効率的な執行ができるような制度構築**が自治体にも国にも必要だとあらためて考えます。

山科魅力発信 来年で50回! 山科義士まつり!!

今年も冬の風物詩「山科義士まつり」が開催されました!言わずと知れたことですが、山科と忠臣蔵には、大石内蔵助が吉良邸討ち入りを決意する間、山科の地に隠居したという縁があり、昭和49年に地域と企業、行政が一体となって「山科義士まつり」が始まりました。

区内13の自治連合会と地域女性会、山科経済同友会が中心に協力し、当番となった学区等から大石内蔵助役が排出されます。

各所で行われる勝ちどきや、東部文化会館で東映太秦映画村の協力による演劇、子ども隊士や「大石音頭」等々、見所は盛り沢山です。

来年は節目となる第50回が予定されています。皆さんも記念すべき義士まつりのシャッターチャンスをとらえて、ぜひ写真コンクールへ応募するのはいかがでしょうか。



CHECK!

教育が1丁目1番地!

こじまが政治の道を目指した初志は教育改革です。

国政における教育改革に向けた取り組みを応援しています。



全ての子どもに学ぶチャンスを!

衆議院議員
まえはら 誠司

YouTubeで
国政報告
配信中▶▶